

～薬の伝言板～

坐薬の種類と使い方

No. 305 2023年4月
丸子中央病院 薬局

坐薬（坐剤）は、肛門や膣に挿入して、体温や分泌物によって徐々に溶けて体に作用するお薬です。

坐薬が飲み薬よりも優れている点としては、①お薬の吸収が早く、効き目が現れるのが早いこと、②吐き気や痙攣などがあり、口から薬を飲むことが難しい場合にも使用できることの2点が挙げられます。

そのため、高熱が出ていてすぐに下げたい場合や、口から薬を飲むことがまだ難しい小さなお子さんなどに用いることができます。

坐薬の使い方

使用する前に手洗いをしっかり行い、排便を済ませた後に挿入します。

使用する直前に開封し、先端部の尖っている方から挿入します。

スムーズに入らない場合にはワセリンやオイル（オリーブオイル、ベビーオイル等）を塗ることも可能です。

小さなお子さんの場合、医師の指示により1回2分の1個を使用する場合は、包装の上からきれいな包丁やはさみで斜めに切断し、先端部の尖っている太い方を使用します。



一度挿入して出てきてしまった場合

挿入直後で形が崩れていない場合は、すぐに再度挿入しましょう。

少し時間をおいて出てきた場合、形が崩れていればある程度吸収されているため、しばらく様子を見ましょう。

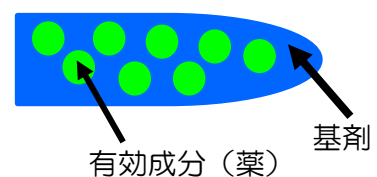
坐薬の種類

坐薬は「有効成分」と「基剤」で出来ています。

有効成分：からだの中で作用し、目的とする効果を現す薬の主成分

基剤：有効成分が体内の適切な場所で吸収され効果が出るように薬を包んでいる添加物

坐薬を肛門に挿入すると、まず基剤が溶けることで中にある有効成分（薬）が体に吸収されて効果が出てきます。坐薬はこの基剤の種類によって2つのタイプに分けられます。

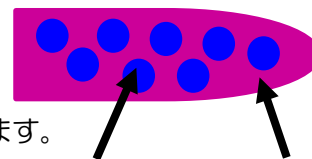


(1) 油脂性基剤の坐薬

基剤：油脂性で体温によって速やかに溶けます。

有効成分：基剤と混ざらないよう、水溶性です。

気温が高いと基剤が溶けてしまうため、冷所保管する必要があります。



有効成分（水溶性） 基剤（油脂性）

代表的な油脂性基剤の坐薬

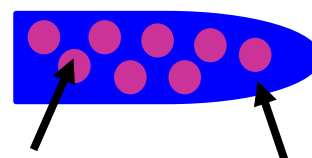
成分名	効能・効果
アセトアミノフェン	解熱・鎮痛
シクロフェナクナトリウム	解熱・鎮痛
炭酸水素 Na 等	便秘症

(2) 水溶性基剤の坐薬

基剤：水溶性で体内の分泌物によって溶けます。

有効成分：基剤と混ざらないよう、油脂性です。

室温で溶けることはなく、室温保管が可能です。



有効成分（油脂性） 基剤（水溶性）

代表的な水溶性基剤の坐薬

成分名	効能・効果
ドンペリドン	吐き気止め
ジアゼパム	熱性けいれん発作

2種類以上の坐薬を使う場合

(1) 2種類の坐薬のタイプ（基剤）が同じ場合

早く効いてほしい方を先に挿入し、5分程空けて次の坐薬を挿入します。

(2) 2種類の坐薬のタイプ（基剤）が異なる場合

水溶性基剤の坐薬を先に挿入し、**30分以上空けてから**油脂性基剤の坐薬を挿入します。

先に油脂性基剤の坐薬を挿入すると、後で挿入した水溶性基剤の有効成分（油脂性）が油脂性基剤に溶け込んでしまい、効果が低下してしまいます。



坐薬は飲み薬と比べて効き目が早い薬ですが、安全に使っていただくためには注意点を守ることが大切です。上記以外で使い方、使用期限、保管方法その他不明な点があれば気軽に薬剤師に尋ねてください。